

## 4 運営計画

- 4-1 運営方式
- 4-2 運営体制・組織
- 4-3 地域との連携
- 4-4 施設名称
- 4-5 既存類似施設の取扱い

## 4-1 運営方式

（仮称）文化芸術館・文学館を長期間にわたり健全に運営していく手法としては、直営方式や指定管理方式などが想定されますが、いずれの方式にも長所・短所があり、施設または活動ごとに分けることも想定したうえで、慎重に運営方式を検討していきます。

また、運営方式は、重要文化財級の美術品等を展示する場合や、将来、公開承認施設として文化庁の承認を受けるうえで大きく影響するため、検討にあたっては、これらの計画・予定等も踏まえることとします。

運営方式の検討にあたっては、主に次の観点からの検討を行います。

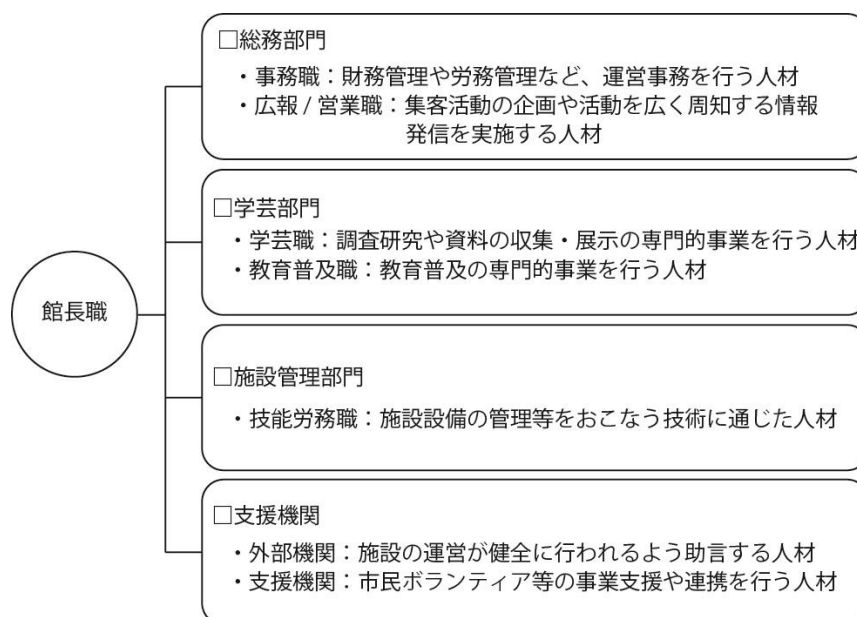
### ○運営方式検討の主な観点

- ・コスト（運営、維持管理、人件費、展覧会開催事業費等）
- ・収集保存と調査研究の継続性
- ・事業実施における外部連携
- ・多様な市民の参加促進
- ・集客やサービスの充実
- ・専門性を有する人材の確保とその育成 等

## 4-2 運営体制・組織

活動計画の内容を具体化するにあたっては、相応の運営体制を計画するとともに、事業の遂行に最適な部門により構成される組織体制を検討します。

想定される組織・人員と期待される資質は次のとおりです。



また、開館に向けては、施設整備、事業活動計画のそれぞれの面において、より詳細な検討、企画、準備が必要となることから、専任の学芸員の配置も含め、専属の職員による準備体制の早期構築についても検討します。

#### 4-3 地域との連携

この事業の重要な目的のひとつに、まちなかの回遊性の向上があります。そのためには、市内外の関係機関や団体、例年実施されている行事やイベントとの連携が不可欠です。

また、より多くの市民に利用していただくためには、市民との一体感を生みだし、地域や年代を超えた連携も必要です。

そこで、(仮称)文化芸術館・文学館での活動を介して、まちの将来の担い手である高校生をはじめとする若年層の参画を促し、幅広い年代がともに意思疎通を図っていく取組や事業を検討・実施していきます。

#### 4-4 施設名称

施設の名称をつけるにあたっては、(仮称)文化芸術館及び(仮称)文学館が多くの人々に楽しんでもらい、ふるさと栃木に愛着をもってもらう場として、また、本市を訪れる人々にとっても親しみやすく、訪れたい場所として、広く受け入れられる名称(愛称)が期待されます。

施設名称の設定にあたっては、広く市民に受け入れられる効果的な方法を検討していきます。

#### 4-5 既存類似施設の取扱い

(仮称)文化芸術館及び(仮称)文学館と機能・役割が類似する施設については、各施設の目的や必要性を慎重に検討・精査したうえで、必要に応じて新たな用途・役割を与えるほか、(仮称)文化芸術館・文学館との機能分担や相互補完の関係を構築し、歴史・文化・芸術の発信や、まちなかの回遊性の向上につながる施設として活用していきます。